

コメント

1.腸管出血性大腸菌感染症

2件の報告があり(2件ともO157)、今年の累計は15件となっています。盆休み明けの第34週(8月20日～26日)以降報告が続いており、9月は6件の報告がありました。

2.感染性胃腸炎

定点当り4.25人とやや増加しています。安芸区では12.5人となっています。

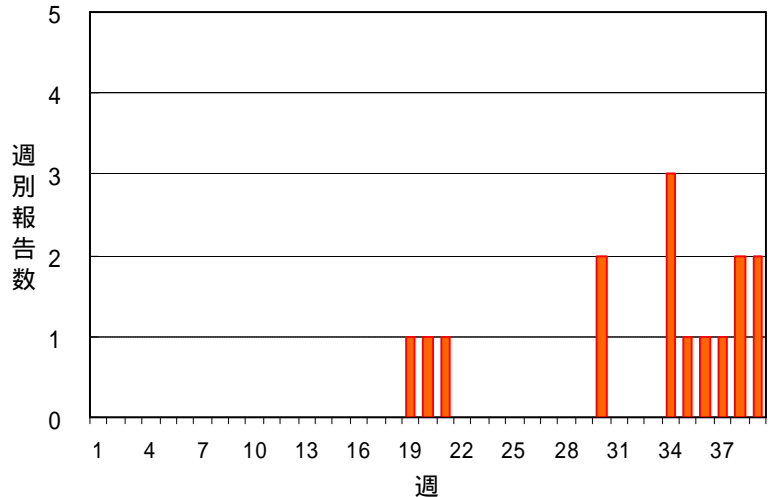
3.A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

定点当り1.04人とやや増加しています。佐伯区では4.3人と特に多くなっています。

4.レジオネラ症

1件の報告があり、今年の累計は7件となっています。例年と比べて多くなっています。

2007年の腸管出血性大腸菌感染症報告状況



5類感染症報告状況 (定点把握対象分)

疾患名	報告数	定点当り	平均過去5年(注1)	発生記号	疾患名	報告数	定点当り	平均過去5年(注1)	発生記号
インフルエンザ(注2)	-	-	-		麻疹(注3)	-	-	0.02	
咽頭結膜熱	10	0.42	0.08		流行性耳下腺炎	2	0.08	0.85	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	25	1.04	0.83	↗	RSウイルス感染症	-	-	-	
感染性胃腸炎	102	4.25	3.83	↗	急性出血性結膜炎	-	-	-	
水痘	9	0.38	0.60		流行性角結膜炎	7	0.88	1.48	
手足口病	5	0.21	0.30		細菌性髄膜炎	-	-	-	
伝染性紅斑	5	0.21	0.16		無菌性髄膜炎	4	0.57	0.31	
突発性発疹	16	0.67	0.74		マイコプラズマ肺炎	2	0.29	0.43	
百日咳	-	-	0.04		クラミジア肺炎(注4)	-	-	-	
風しん	-	-	-		成人麻疹	-	-	-	
ヘルパンギーナ	13	0.54	0.25						

急増減	↑	↓	前週と比較しておおむね1.2以上の増減
増減	↗	↘	前週と比較しておおむね1.15～2の増減
微増減	↗	↘	前週と比較しておおむね1.1～1.5の増減
横ばい	→		ほとんど増減なし

報告数が少ないなど、傾向の判断が不適切と思われるものについては、発生記号を記載していません。

インフルエンザ定点数(小児科定点を含む)	37
小児科定点数	24
眼科定点数	8
基幹定点数	7

(注1)過去5年間(RSウイルス感染症は3年間)の同時期平均(定点当り)
 (注2)鳥インフルエンザを除く
 (注3)成人麻疹を除く
 (注4)オウム病を除く

1類～5類感染症報告状況 (全数把握対象分)

類型	疾患名	報告数	累積	備考
2	結核	5	127	男性(10歳代)・1人、男性(30歳代)・1人、男性(40歳代)・1人、女性(40歳代)・1人、男性(60歳代)・1人
3	腸管出血性大腸菌感染症	2	15	男性(10歳未満)・O157、女性(10歳未満)・O157
4	レジオネラ症	1	7	女性(70歳代)

5類感染症報告状況の推移 (定点把握対象分)

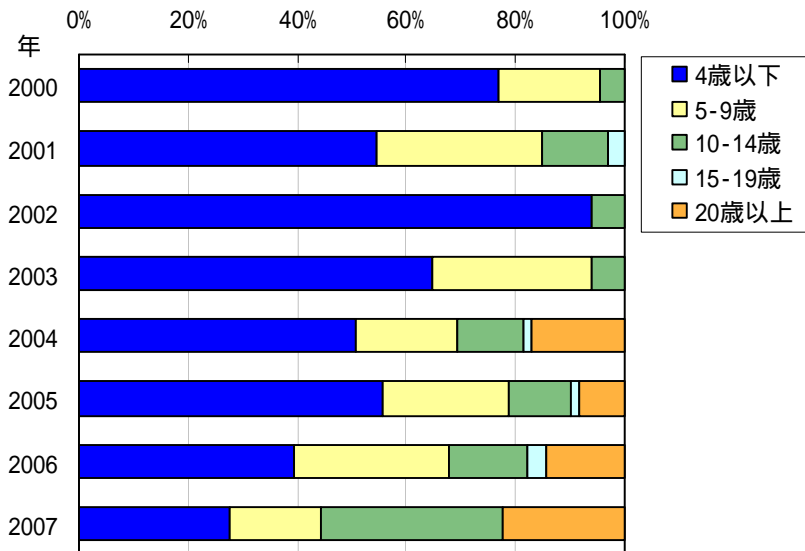
報告数	広島市	週	インフルエンザ (注1)	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	風しん	ヘルパンギーナ	麻しん (注2)	流行性耳下腺炎	RSウイルス感染症	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (注3)	成人麻しん	
			第35週	-	10	16	103	15	13	3	24	2	-	12	-	3	-	8	-	-	1	-	-	-
第36週	-	4	22	90	11	5	4	26	2	2	17	-	5	-	7	-	-	1	-	-	-	-	-	
第37週	-	13	18	88	17	6	4	22	2	-	15	-	3	-	6	-	-	1	2	-	-	-	-	
第38週	-	9	20	90	8	7	5	18	3	-	14	1	4	1	1	1	1	-	-	-	-	-	-	
第39週	-	10	25	102	9	5	5	16	-	-	13	-	2	-	7	-	-	4	2	-	-	-	-	
定点 当り	広島市	第35週	-	0.42	0.67	4.29	0.63	0.54	0.13	1.00	0.08	-	0.50	-	0.13	-	-	1.00	-	-	0.14	-	-	-
		第36週	-	0.17	0.92	3.75	0.46	0.21	0.17	1.08	0.08	0.08	0.71	-	0.21	-	-	0.88	-	-	0.14	-	-	-
		第37週	-	0.54	0.75	3.67	0.71	0.25	0.17	0.92	0.08	-	0.63	-	0.13	-	-	0.75	-	0.14	0.29	-	-	-
		第38週	-	0.38	0.83	3.75	0.33	0.29	0.21	0.75	0.13	-	0.58	0.04	0.17	0.04	-	-	0.13	0.14	-	-	-	-
		第39週	-	0.42	1.04	4.25	0.38	0.21	0.21	0.67	-	-	0.54	-	0.08	-	-	-	0.88	-	0.57	0.29	-	-
全国	第37週	0.10	0.28	0.84	3.35	0.42	0.92	0.22	0.83	0.03	0.01	1.33	0.01	0.32	-	0.04	0.69	0.02	0.07	0.27	0.01	0.01	0.01	
	第38週	0.08	0.23	0.77	2.94	0.42	0.77	0.18	0.72	0.03	-	0.98	0.01	0.26	-	0.02	0.70	0.01	0.03	0.22	0.02	0.02	0.02	

(注1)鳥インフルエンザを除く (注2)成人麻しんを除く (注3)オウム病を除く

新たに判明した病原体検査結果

診断名	患者 年齢	性別	発症 年月日	検査材料	検出病原体
咽頭結膜熱	8	女	2007/07/20	咽頭拭い液	ライノウイルス
咽頭結膜熱	1	男	2007/07/23	咽頭拭い液	ライノウイルス
咽頭結膜熱	5	男	2007/08/24	咽頭拭い液	ヒトメタニューモウイルス
無菌性髄膜炎	5	男	2007/08/21	糞便	コクサッキーウイルスB5型
無菌性髄膜炎	0	男	不明	髄液	コクサッキーウイルスB5型
急性肺炎	3	男	2007/06/25	咽頭拭い液	ライノウイルス
脳炎	0	男	2007/07/05	咽頭拭い液	ライノウイルス

【参考】広島市における百日咳の年別・年齢階層別割合 (2000年～2007年第39週)



百日咳は、百日咳菌の感染によって起こる急性の呼吸器感染症で、特有のけいれん性の咳が長期間続くのが特徴です。

最近、乳幼児の割合が低下し、学童から成人の割合が増加する傾向にあります。

成人の百日咳の場合、咳は長期間続くものの、典型的な発作性の咳を示さないため、百日咳と分からないことも多く、そのままにしておくと、周囲に感染が拡大するおそれがありますので、注意が必要です。

本週報は、速報性を重視していますので、今後調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあります。なお、感染症情報の詳細についてはホームページをご覧ください。

URL <http://www.city.hiroshima.jp/shakai/eiken/center.html>

【問い合わせ先】

広島市感染症情報センター/広島市衛生研究所 〒733-8650 広島市西区商工センター四丁目1番2号
TEL(082)277-6575 FAX(082)277-5666 E-Mail eiken@city.hiroshima.jp

2007年第39週 (9月24日～9月30日)